

視察調査報告書

委員会名	観光戦略検討特別委員会
参加者	委員長 畑尻 宣長 副委員長 三宅 健司 委員 新免 悠香 三浦 康宏 荻野 秀範 内田 実 江村 力 柴田 敏光 山崎 泰信
視察日時	平成 29 年 5 月 11 日 (木) 13:15 ~ 14:45
視察先・概要	京都府宮津市 人口：19,316 人 世帯数：8,638 世帯 面積：172.74 k m ² 特記事項：住みよさランキング 2016 (東洋経済) 総合 360 位 (安心 254 位、利便 491 位、快適 475 位、富裕 549 位、住居 189 位)
視察項目	「観光まちづくり推進事業」について
視察概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 宮津市の観光の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本三景天橋立中心の観光地 (2) 近畿圏からの観光客が中心 (3) 短期滞在型、通過型観光 2 事業の背景と事業展開 <p>人口の減少・旅客の減少、旅行の「型」の変化、インターネット普及による影響の認識といった観光を取り巻く 3 つの大きな変化への対応と、高速道路の整備による中京圏、首都圏からの観光客確保、観光のし烈な地域間競争に取り残されないように早急な対応が必要であることから、従来型の観光スタイルからの脱却を目指し、「観光革命」を合言葉とした事業展開をしている。</p> 3 施策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 誘客推進と外国人観光客の受入体制整備 <ol style="list-style-type: none"> ア 天橋立協会の意識改革 イ ホームページの充実(宿泊あっせん、多言語、体験プログラム) ウ インバウンド対策 (2) 日本の顔となる観光地(海のみやこの物語)づくり <ol style="list-style-type: none"> ア パール&クルーズ イ 天橋立ライトアップ ウ 満腹際の開催(道の駅「海の京都宮津」) (3) 「Made in 宮津」の土産物づくり (4) 観光まちづくり推進事業 <ol style="list-style-type: none"> ア 宮津市観光推進会議の設置 イ マーケティング調査の実施

	<p>ウ 海の京都DMOの設立・運営 エ 天橋立地域本部の設立・運営 (ア) 宮津市観光推進会議の運営(講演会の開催、ワークショップの開催) (イ) 着地型旅行商品の造成・販売強化(天橋立アクティビティセンター(体験型観光を楽しむ拠点)整備) (ウ) 観光プロモーション(WEBマーケティング、旅行商品企画・造成事業)</p>
<p>所 感 視察しての感想 や岡崎市への提 言など</p>	<p>・意識改革がとても重要である。そこから新たな発想が生まれ、新しい商品開発につながっている。特に海のイメージが低い京都にあえて「海の京都」を訴えることで、相手に与えるインパクトを強くしている。また、旅行業免許は必須である。</p> <p>・マーケティング調査にWi-Fiパケットセンターを用いて、滞留時間や流動パターンを把握するというのは、スマートフォンが急速な普及をしている現在では有効だと思った。ネット環境の整備も観光地に望まれるものであり、観光地・観光客共にメリットがあるならば市としても導入を検討していいのではないかと思った。宮津市も地域連携をしているとの事だった。岡崎市も単独で考えていくより、広域での連携を考えていくべきだと思った。</p> <p>・平成25年に京都府が策定した「海の京都」構想、平成27年の京都縦貫自動車道全線開通、「海の京都博」等により、外国人宿泊客数が平成25年からの4年でほぼ倍増している事実には驚いた。そしてそこから更に、平成26年から31年までの5年間で2倍以上の5万人に、観光消費額を89億円から150億円に「滞在型観光への転換」を図り、達成を目指し試行錯誤しておられる姿勢に感心した。</p> <p>・観光は今やし烈な地域間競争であるとして、取り残されないように対策が必要であるとし、観光革命を合言葉に平成27年度にアクションプランを策定し、事業展開をしている。また、京都府と北部7市町が連携して「海の京都DMO」を設立し、広域的な旅行商品やサービスの拡充を図っている。本市も西三河で広域的な観光客誘致は行っているが、西三河地域としての組織活動は確立されていない状況であり、豊田・岡崎・西尾・幸田の3市1町の山村から海までの地域の特色を生かした地域連携が必要ではないか。宮津市も自然や地元産業の体験型旅行商品づくりを行っている。今後、本市でも強力に推進する必要があると感じた。</p> <p>・宮津市は日本三景天橋立を中心軸としているが、近年、人口減少、旅客の減少から脱却するため、観光革命を合言葉に事業を展開し、観光ガイドの育成、ボランティアの活用、小中高生へのふるさと意識を高揚させるような意識改革に取り組んでいる。本市にも有益な観光施策として、日帰り圏から滞在時間を延長し、宿泊客を増加させる。観光業と他のあらゆる産業が連携を進め、お金を落としてもらおう仕組みづくりを構築する。まちなか観光やエコツーリズムなどを旅行商品として確</p>

	<p>立させ、ニーズの高い体験型旅行商品の開発、売り込みに力を注いでいる。これらの施策は本市にも取り込んでいくべきものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本三景の一つ天橋立のある宮津市においても、「観光革命」を合言葉のもと、なみなみならぬ努力をしている。しかし、思うような観光入込数になっていない。その中でもインバウンドは着実に伸ばしている。本市もインバウンド数をねらうなら、観光案内所に外国人対応のできる案内人をおいたり、パンフレットも外国人向けパンフレットの作成をしたり、積極的に海外に商品説明に出向いたりするべきである。「海の京都DMO」の設立・運営を参考にして「岡崎版DMO」を設立する時に来ていると思う。また、ぜひ、旅行業の免許を早急を取得すべきだと痛感した。 ・本市のみで観光を進めるのではなく、近隣市町との連携が必要と考える。双方がプラスとなる提案を出し合い、協力することで大きなものとなる。海外誘客も方向性の同じ市町と連携することが必要で、競争することはマイナスとなるので、協力が必要である。 ・宮津市では、観光名所である天橋立を中心とした街並みが整備され、天橋立駅から智恩寺へと続く通りには江戸時代から続く店舗も残っており、歴史の趣を感じた。観光と歴史まちづくりを融合させ、天橋立駅周辺を一体的に整備しており、観光客を招き入れる姿勢が感じられ、また訪れたいと思った。本市にも歴史的な名所が多くあるので、整備を進め、歴史まちづくりを融合させた観光を推進していくと良いと感じた。また、以前訪れた際よりも整備が進んでおり、外国人観光客も増加している印象で、誘客の成果が出ていると感じた。
<p>委員長の総括</p>	<p>宮津市の取り組みは、今までの観光の意識を変える「観光革命」であるとし、意識改革、商品造成に力を入れていった。まさしく、本市においても、観光協会、市職員の意識の変革を行う必要があると感じた。それは、おもてなしとよく言われるが、現状、本市の観光に対する思いが受け入れる体制になっていないと思う。今後は意識を変える努力をしていただきたいと思う。</p> <p>また、体験型、参加型を取り入れることは、今後の観光の一つの柱になることはわかっているが、どのようなことが本市としての魅力ある体験となるのか、具体的に検討する必要があると思うし、ここで民間の力が必要になってくるので、どう連携を取っていくのか、今後の課題であると思った。</p> <p>ちなみに、3年前に別のテーマで「天橋立」を訪れたことがあるが、その時と比較し、お客さんの数はもとより、外国人の方が多くことに驚いた。確実に事業の成果が出ていると感じた。国の補助事業をうまく利用し、歩道の整備もされており、道路に面しているお店の雰囲気、与える印象が格段に良くなっていた。目に見える形での成果が、観光入込客数に反映されていると感じた。</p> <p>さらに、市の職員の来訪者をもてなすという気持ちが伝わってきた。</p>

本市の職員にも、どの部署であれ、もてなすという気持ちを持てるように成長してほしいと思った。

今回の視察を通じて、観光協会の公益財団法人への移行に伴い、どのような成果が得られているのかなど、過程も含め調査することが出来た。さらに、海の京都DMOの設立、運営についても学べたと思う。これは、京都というブランドイメージを利用できるメリットがあるが、広域でどのように連携していくのかということに関しては大変参考になった。